



第 36 号

# みどりの風

## 目 次

フレンズTOHO定期総会「記念講演会」

「世界が注目する朝鮮半島」

コリア・レポート 編集長 辺 真一 氏…………… 2 頁～8 頁

フレンズ・TOHO 「協賛企画」報告

「減災研究会」報告

愛知東邦大学 学術情報課長 黒柳好子 …………… 9 頁～11 頁

第 8 回「中学生英語スピーチコンテスト」を終えて

東邦高等学校 国際交流室長 伊藤保憲…………… 11 頁

2013 年「夏の企画」報告

親子理科実験講座…………… 12 頁

ドッジボール大会…………… 12 頁～13 頁

親子スイーツ教室…………… 13 頁

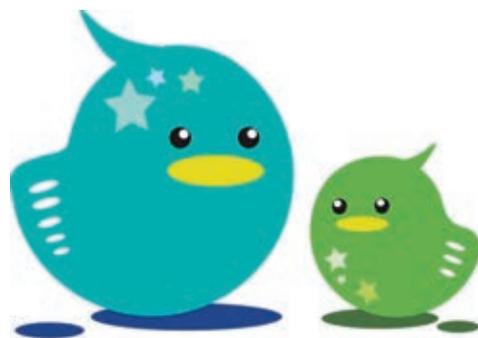
2013 年「秋の企画」報告

コーヒー講座 第 2 弾…………… 14 頁

シリーズ「ニュース そうだったのか」連続講座 …… 15 頁

自然と親しむ会「赤沢美林への旅」…………… 16 頁

編集後記…………… 16 頁



トーくん・ホーちゃん®

東邦学園のキャラクター トーくん・ホーちゃんです

題字：森井勝也

写真（上）：赤沢自然休養林

2013/6/18 フレンズ TOHO 定期総会「記念講演会」

## 「世界が注目する朝鮮半島」

コリア・レポート 編集長 辺 真一氏

こんにちは。ご紹介にあずかりました、辺真一と申します。私の名前「辺」は、韓国では珍しいと言われていています。中国からきたと父親から聞きました。日本人よりんにくと唐辛子の血を引いているだけ、韓国・韓国人、朝鮮・朝鮮人のことはよく解っているつもりです。また、日本で生まれ育っただけに、韓国・朝鮮の人よりは日本・日本人のことを知っているつもりです。ですから、日本と朝鮮半島、韓国、北朝鮮との間にブリッジを掛けたいと思っています。「日本と韓国、日本と北朝鮮、韓国と北朝鮮が仲良くなればな」という思いで40年以上、ジャーナリスト活動が続けてまいりましたが、残念ながら、韓国と北朝鮮は未だもって統一に至っていないんですね。日本と韓国も国交を結んで48年経ちましたが、依然として歴史認識や領土問題をいがみ合う状況が続いているという状態。日本と北朝鮮とは、ご承知のように拉致の問題があり、不幸なことに終戦後68年経っても国交に至ってないんです。これは日本、北朝鮮いずれにとっても好ましいことではない。向こう三軒両隣といいますが、日本は領土問題を抱えています。中国とは尖閣諸島の問題、韓国と

は領土問題、ロシアとは北方領土の問題があり、北朝鮮とは領土問題ではなくて拉致の問題です。

韓国は動物に例えますとトラですね。1988年ソウルオリンピックを私たち韓国人はホドリオリンピックと呼んでいました。ホドリというのはトラのマスコットでタイガーを指すんです。中国はかわいらしいパンダですね。中には、尖閣諸島を乗っ取ろうとしているので、かわいいパンダには見えない、むしろ狼に近いとお思いの方もいらっしゃるのでは。ならば、日本は前門のトラ、後門の狼に挟まれているということになるんじゃないでしょうか。そして、右上の方を見ますと北方領土のあるロシアがありますね。ロシアを動物に例えますと熊、北極ですから白熊ですね。こうなると日本はトラ、狼、熊とにらみ合っている状態ですね。日本を象徴する動物はトキと言われますが、トキだと食べられてしまいますから立ち向かうことはできません。秋田犬、土佐犬、確かに強そうですが、やはり3頭を相手にするのは容易なことではないですね。ですから、これからの日本の安全・平和・繁栄の観点からしますと、向こう三軒両隣の複雑な問題を、知恵をしばって解決

するというのがこれからの日本の選択ではないかと思っています。

私は韓国人ですので、竹島問題についてお話ししたいと思います。皆さんは日本人ですから、竹島は日本の固有の領土であると思われていると思います。私は、正直なところどちらの領土かということは知りません。韓国の文献や海賊が言って



**東邦スイミングクラブ**  
〒465-8516 名古屋市名東区平和が丘3-11 TEL052-782-1266

**東邦スイミングスタジオ**  
〒453-0804 名古屋市中村区黄金通1-18 TEL052-486-7712

工業用ゴムプラスチック製品  
**丸善株式会社**  
代表取締役 木村 憲 藏

本 社 名古屋市中区金山4丁目3番11号  
〒460-002 TEL(052)332-0811代 FAX(052)332-3566

いることを見ますと「一理あるな」と思います。しかし、日本の古文書や資料などを見ますと「やっぱり島根に帰属した日本の領土ではないか」と思ったりするんです。私は韓国人だから韓国の領土であるというつもりはさらさらありません。韓国人だからという、盲目的な愛国心はこれっぽちも持っていません。善悪はきちんと主張しようと思っております。韓国に不利な発言をして韓国から国賊扱い、あるいは売国奴というレッテルを貼られることがたびたびありますが、まったく意に介していません。日本と韓国が仲良くやってもらいたいと思っております。

この竹島の問題は、難しい問題であることには間違いありませんが、大事なことは相手の言い分に耳を傾けるというような、度量と余裕を双方がもつ必要があると思うんです。例えば、皆さん方の耳には、犬の鳴き声は“ワンワン”に聞こえると思いますね。ところが、不思議なことに韓国人には“モンモン”にしか聞こえないんですね。耳がおかしいんじゃないのと言われても、やはり“モンモン”なんです。日本人からすると“モンモン”だと言われても、やはり“ワンワン”だと言われると思います。これを主張しあっても、水掛け論ですよ。大事なことは、そう言われてじっくり聞いてみると「“ワンワン”と聞こえるな」、飼っている犬の鳴き声を聞いてみたら「“モンモン”と聞こえなくもないな」という気持ちを、日韓双方が持つということが大事じゃないかなと思うんです。

私は、韓国でも講演をすることがよくあります。韓国人はずばり聞いてきます。「だいたい竹島という名前がいかかわしい」「竹が一本も生えてないじゃないか」と言うんですね。竹が生えてないからいかかわしいという発想なんですね。韓国はこの島を独島（トット）と発音します。韓国が実行支配して韓国の警備兵が駐屯しています。島根の人たちからするとトットと出て行ってくれという気持ちじゃないでしょうか。これを売り言葉に買い言葉という。こういうやり取りをしてもこの問題は解決しないんですね。

日本と韓国は国交を結んでよかったなとつくづく

思います。今から48年前の1965年、日本と韓国の国交が結ばれた時の人の往来はたったの1万人、それが今は500万人。48年前の1965年では、好きか嫌いかということ、韓国人の圧倒的多数が、日本人の大多数が相手に対して嫌いだ、良い感情は持っていないんですね。しかたがないですね。韓国は日本の植民地統治から開放されて、まだ20年も経っていません。一方、日本は李承晩ラインとって、日本の漁船が片っ端から拿捕されるという。そういうことで非常に仲が悪かったんですね。でも、「このままではだめだ」「40年後50年後のことを考えて仲直りすべきだ」と。当時、岐阜県の政治家で大野伴睦という方がみえまして、自民党副総裁で党内一の反韓、韓国嫌いの方だったらいいんですね。韓国嫌いの政治家が韓国と握手をしなければ、国交は結べないということになりまして、それじゃあ俺が乗り込もうということだったらしいですね。大野さんが韓国に行った時も、竹島問題をどうしようか、日本と韓国の間で将来に禍根を残さないようにと、あれこれやったんですが…。それから48年経ち、そのつけを今、私たちが負っているんですね。中には、こういう難しい問題は次の世代に任そうという人々もいます。尖閣諸島もそうですが、それは無責任だと思うんですね。私たちの世代で知恵を絞って解決する。いやなことを後回しにするのではなく、解決していくべきではないかと思います。そこで、建設的な提案をさせていただいているんです。「この際、双方とも手を引いて昔のままの無人島にしましょう」「島の周辺海域を共同で開発してはどうでしょうか」と提案をしているんですが、日本も韓国もいやだということです。何で自分の領土から手を引かないといけないのかと。では、手を引くのが難しければ、竹島は日本に近い東島、韓国に近い西島の2つの島から成っているのだから、「この間に中間線を引いて分割共有するのはどうでしょうか」とテレビ番組で主張したところ、これまた双方から猛烈な反発をうけたんです。でも、これを戦争、武力で決着をつけるんですかということなんですよ。何度も言いますが、人は500万人、貿易は800億\$でお互い

# Rinnai

リンナイ株式会社

〒454-0802 名古屋市市中川区福住町2番26号 ☎052-361-8211



中日本警備株式会社

〒460-0022 名古屋市中区金山2丁目1番24号

電話 (052) 322-3291 代 FAX (052) 322-3110

URL <http://www.nakaninonkebi.co.jp/>

警備保障

が第3のパートナーとなり、切っても切れない間柄なのに、何もない無人島をめぐるって武力衝突なんてとんでもない話ですね。手は引かない、共有もできない。では、どうするか。最後の提案をしたいと思えます。九州と朝鮮半島の南部を海底トンネルで結び、朝鮮半島と日本列島を一つにしてしまっただけでいいでしょう。これは、日本人の果てしなき夢、戦前の構想だったんです。1930年代にJRの前身である旧国鉄が日欧鉄道構想を打ち上げたんです。当時、日本は朝鮮半島を植民地統治下にしており、さらに中国の満州一帯を支配下にしておりましたので、鉄道を通そうとしておりました。満州鉄道から更に先のヨーロッパまでを考えていました。これが日欧鉄道構想というものなんです。こういう構想を持っていたんですね。それが朝鮮戦争勃発で頓挫し、日本の夢はやぶれてしまいました。当時は軍事的に支配し軍事力で進出していましたが、今は時代が違いますから、経済、文化、あるいは情報で大陸に行こうじゃないか。そのために鉄道あるいはトンネルを通すことを、未来のプロジェクトとして日本と韓国が共同で追求したらどうだろうかと思います。これこそまさに日韓の未来プロジェクトとして良いんじゃないかと。九州の佐賀・長崎・壱岐・対馬と韓国の釜山を繋いでいくと全長約230kmで、青函トンネルの4倍弱です。日本と韓国の双方から掘れば、うまくいけば12年くらいで完成できるかもしれません。総工費は10兆円をくだらないと思うんですが、日韓で折半すれば5兆円程度で済みます。リニアモーターカーが完成しますと1時間で500kmとして、九州福岡から韓国ソウルまで650kmなので、1時間10分そこそこで着いてしまうという、夢のような話ではないかと思うんです。韓国の方から、再三「やりませんか」と日本に打診がきているんですが、日本は動かないんですね。日本からすると大陸は西側に位置しており、

西の最終地点(駅)は、朝鮮半島の縦断鉄道を通して、1本はウラジオストックからハバロフスク、モスクワさらにシベリア鉄道を通してヨーロッパまで、もう1本は釜山からソウル、平壤、山東さらに満州鉄道を通してヨーロッパまで行くんです。ヨーロッパの終着地点はアムステルダムです。これが、日本の貿易に莫大なる恩恵をもたらす所以なんです。ところが、日本側が動かないので韓国はとうとうしびれを切らし、今は中国のチンタオとの間で海底トンネルを通す話が持ち上がっています。くどいようですが、5年後10年後ではなく、20年後30年後50年後という先を読んで結論を出していただきたいと思えますね。日本人は何事にも慎重である、もう少し待ってはどうかと進言していますが、どうやら時間切れのようです。今のままですと、絵に描いた餅になってしまいます。残念ですね。今、朝鮮半島の38度線で衝突していますが、38度線は必ずなくなります。南北がいがみ合っていますが、これは必ずなくなります。20年後になるか30年後になるかわかりませんが、そうなると朝鮮半島の縦断鉄道が開通するのは間違いないですよ。釜山は、縦断鉄道が通れば満州鉄道に繋がって、さらに貿易は拡大するでしょうね。朝鮮半島と繋がるということは非常に大事なことでないでしょうか。イギリスは日本と同じ島国ですが、フランスと海底で繋がるということで大きな躍進を遂げているんです。

日中の尖閣諸島問題、日露の北方領土問題もありますが、時間がないので省きます。日本と韓国のことを考えた時、違いを認めていただきたいんです。例えば、箸の長さは中国が一番長く、一番短いのは日本です。韓国は普段はしゃもじを使います。これもよく考えればわかることですが、日本人はお茶碗を持って口に運びますから、箸が短くないといけません。中国人は大家族で大皿を囲んでそれぞれ

*Planners Land*  
株式会社プランナースランド

学校業務のスペシャリストとして  
コンサルティングから導入・運用サポートまで  
システムをワンストップに提供致します。

〒460-0008 名古屋市中区栄5-25-6  
TEL:052-265-2930 FAX:052-265-2931  
<http://www.planners.co.jp>

Seikodo  
株式会社 正鶴堂

〒462-0842  
名古屋北区志賀南通2-4  
TEL 052-914-1855 / FAX 052-914-1887  
URL <http://www.seikodo1950.co.jp/>

イ	メ	ジ	を
解	や	か	な
し	ま	せ	ん
か	？		

空調・給排水衛生設備工事  
消防施設工事 総合メンテナンス事業

**ダイター株式会社**

〒464-0858 名古屋市中千種区千種三丁目1番9号  
TEL(052)732-5821 FAX(052)732-5295

の受け皿に取って食べないといけませんから、箸が長くないと届かない。朝鮮半島はどうかというと、日本と中国の真ん中だから長くもなく短くもない。声の大きさもそうなんです。中国人の声の大きさは半端じゃないですよ。次に大きいのは韓国人で、最後に日本人です。うるさいなあと思って仕方ないですよ。寝床についても日本人は畳の上に布団を敷きますね。韓国は床の上です。中国はベッドの上に布団を敷いているんです。昔からそうしてきたからしかたないですよ。それを認め合わなくてはいけないんですよ。女性の皆さん方にしても、日本はぴったりとした和服ですよ。韓国人はフワッとしたチマチョゴリ、中国人はチャイナドレスですよ。そういうことも含めて認め合うという気持ちが大事なことだと思います。本当の相互理解は、お互いの共通点ではなくて、お互いの違いを認め合う理解するという事ではないでしょうか。文化、伝統的な文化の違いを認め合うことが国と国の関係でも大事だと思います。

日本と韓国について非常に残念だと思ったのは、3年前、日韓併合100周年の時に韓国のKBSテレビと日本のNHKが共同世論調査をした時、おもしろい結果が出ました。日本人に「真っ先に思い浮かぶ韓国人は？」と聞いたところペ・ヨンジュンと回答があり、同じように韓国人に聞いたところ伊藤博文と答えたのです。100年経ったら日本はペ・ヨンジュン。100年経っても韓国は伊藤博文なんです。これも事実です。このアンケートは、過去を忘れたがる日本人と過去にこだわる韓国人という結果ですが、非常にわかりやすいと思います。そういうことも認め合ってもらいたいですね。

北朝鮮とだけは領土問題はないけれど、拉致問題があります。この拉致問題をどう解決していくかということですが、なんとしても解決しなければなら

ないんです。安倍政権としても何とかしないといけないということで、飯島さんを平壤に行かせましたね。私は、日本は独自に動くべきだと高く評価したんですが、日本の外交はちやちな外交といえますか、うまくない。飯島氏はスタンドプレイで、特使でもなく親書もない。そんなことで解決するんですかと。小泉総理からまる11年経って、まったく進捗してないんですよ。金正日が亡くなりました。その時に、日本はなぜ弔電1本電話1本かけられないんだと言いました。私の知るよき日本人の姿は、いくら嫌いな人でも火事と葬儀の時は例外ですよ。向こうからすると、36年間植民地統治下においておきながら今日まで一言の詫言もない、賠償もしない。まして、日本から経済制裁を受けている。その状況下で東日本大震災の時には、義捐金を送ってきたんですよ。見舞いの電報も送ってきました。なのに、日本は線香1本上げられないんでしょうか。もう少し思い切った外交をやってみたらどうかと思いますね。拉致被害者の家族の方の苦悩を考えたら、やり方を考えたらどうでしょうか。飯島さんの訪朝は、日韓米の事前協議もなく足並みを乱したと問題になっていましたが、拉致問題に関して韓国はまったく関心がありません。アメリカはミサイルの問題、核の問題に関心はあっても、日本人拉致問題には関心はありません。第3国を当てにしてはだめなんです。いい例は中国です。中国に何度お願いしてきたことか。日中首脳会談の度に議題にあがり、その都度「協力は惜しまない」と言っています。しかし、中朝の首脳会談では拉致問題は議題にあがりません。中国は今、満州に力を入れています。中国奥地につき込んでいます。満州は内陸側ですから、海に面した北朝鮮を説得して押さえとかないといけないんです。経済的に困ることが手っ取り早いんです。北朝鮮は貧しい国ですが、資源が豊富です。金・銀・銅・鉄・亜鉛・

**トンボ学生服**  
**トンボスポーツウェア**

 **株式会社トンボメイト**

〒451-0053 愛知県名古屋市中区枇杷島1-21-30  
TEL.052-562-1741 FAX.052-562-4135

◆三菱電機株式会社・新電元工業株式会社 代理店◆

 **エリックヒシキ株式会社**

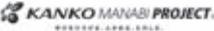
名誉会長 下出玲子  
代表取締役社長 下出啓介

本社 〒465-0093 名古屋市名東区一社四丁目22番地  
TEL.(052)702-2021 FAX.(052)704-3131  
岡崎営業所 〒444-0075 岡崎市伊賀町三丁目25番地  
TEL.(0564)21-6792 FAX.(0564)21-6838

マグネサイト・石炭・石灰石・黒鉛・チタン・ニッケル・タングステン・コバルト・マンガン・クロム・ウラン・レアアースと、韓国統計庁が試算したところ600兆円あるというんです。これを中国は欲しいんです。北朝鮮の鉄鉱石は新日鉄が買っておりました。蟹、マツタケは日本が買ってありますね。これが拉致問題で日本に売れなくなりました。韓国に対しては、島に砲撃したり軍艦を沈没させたりして、経済協力、支援をすべてストップされました。日本にも韓国にも売れなくなり、中国にしか売れなくなりました。今の日朝関係のおかげで中国は北朝鮮の地下資源を独り占めできるんです。その中国が拉致問題で一肌脱ぎますか？資源外交の見地から中国にとって都合がいいんです。それに、羅津・清津・元山の3つの港が欲しいんです。中国がインフラ整備をしてあげているんです。50年間、貿易港として使うことになっていますが、問題は中国が軍港として使いたすと怖いんですね。資源外交の見地からも軍事外交の見地からも、今の中朝関係は好ましくないと思うのです。ですから、拉致問題を中国に頼むことはやめたほうがいいと思うんです。

中国と韓国と北朝鮮の三角関係ですが、三国時代の高句麗と呼ばれた頃、中国に攻められっぱなしでしたよね。今、中国は世界第2位の経済大国で、北朝鮮はアジアで一番貧しい国なんですね。1350km大国と国境を接している小国ですから、北朝鮮はもっと中国の言うことを聞いたらどうかと思います。中国は、核とミサイル問題についてもっと圧力をかけるべきだと思います。それ以外のことに対して、私の意見は「NO」なんです。なぜかと言いますと、経済的に従属・隷属されると、政治的にも外交的にも軍事的にも従属・隷属されるんです。中国は北朝鮮の経済パトロンです。このままでいけば、そのうち政治的にも外交的にもさらに軍事的にも従属さ

せられるようになっていきます。今幸いに、北朝鮮はこれ以上中国に従属されたくないと思っているんです。ならば、韓国ともう少し仲良くするべきではないかと思うんですが、韓国ともいやだと北朝鮮は言っているんです。体力・経済力・国力からみれば40対1くらいの大人と子どもですので、北朝鮮からみると吸収統合されてしまいそうなんです。韓国は「統合はしない」と言っていますが、そのうち韓国が北朝鮮を飲み込んでしまうのではないかと思います。体力ができて対等に連合できるようにしたいと北朝鮮は思っているんです。中国には従属・隷属されてしまう、韓国には吸収統合されてしまうということを考えれば、一番安心・安全な付き合いができるのは、海を隔てた日本になるのではないのでしょうか？日本は、拉致問題がきれいに片付けば、核とミサイルの問題が決着すれば、国交正常化しようと自民党政権下で言ってきたことです。北朝鮮に対しても、日本の企業が進出・開発してくれれば600兆円が2倍、3倍の価値になるということになるんです。日本にとっても日本海をはさんですぐのところに資源の豊富な国があり、かつては統治までして機材を置いて引き上げてきた国ですから。1990年に金丸氏を金日成が呼んだ時に「国交を結ぼう」とまで言った経緯がありますが、そこまで言ってくるとは想像できませんでした。その理由は、当時ソ連が韓国と国交を結ぶ交渉に入ったんです。ペレストロイカ外交で始まったんです。ソ連は北朝鮮の生みの親で、シュワルナゼ外相が一言ことわりに行ったんですが、今のNo.2金ヨンナムが出てきて、「裏切るのか、そちらが韓国と国交を結ぶならば我々も日本と国交を結ぶ」「日本と国交を結んだら、北方4島問題で、我々は日本を支持することにする」。いまだかつて領土問題で日本の肩を持ってくれた所はありません。アメリカですら、今尖閣諸島問題・竹島


**ダンス** **家庭科** **環境** **キャリア**  
**授業支援** **授業支援** **授業支援** **教育支援**  
 カンコーは「授業支援」を通して子どもたちの「学び」を応援しています。  
 菅公学生服株式会社 TEL.052(439)1333 FAX.052(439)5777  
 名古屋営業所 <http://kanko-gakuseifuku.co.jp/>


**For your secure days**  
**セクドム株式会社**  
<http://www.secdom.com>

**木造住宅** **ウツドピタ**  
**耐震補強**  
**見学会開催中!**  
  [www.woodpita.co.jp](http://www.woodpita.co.jp)  
 **矢作建設工業株式会社**  
 **株式会社ウツドピタ**  
 [お問合せ] ☎ **0120-260-220**

問題については明言を避けています。肩をもってくれた国は北朝鮮だけです。金丸さんが訪朝した時に日本ブームが起きたんです。大学には日本語学科ができ、日本を学び日本語を勉強しようと。直後に経済人たちが訪朝した時に、技術設備が欲しいと言われたそうです。西ドイツから輸入しているが、説明書が読めなくて動かせないと云うんです。日本の機械なら今すぐにでも動かせるんだ。だから国交を結んで、技術・設備を得たいと言っていたんです。金丸氏の時はパーになり、それから12年後、息子の金正日が、小泉さん相手に親父が果たせなかった国交正常化に対して拉致問題に腹をくくらなくてはならなかったんです。それまでは、「拉致は言いがかりだ、やってない」と言っていたのに、認めざるを得なかったんですね。日本の資金・設備・技術に国交正常化がかなわないので、認めたんですね。これは、大変なことだったんですよ。金正日が拉致を認めるということは気でも狂われたのですか？というぐらいのことですね。金正日に力があったものだから、側近たちの反対を押し切って敵国総理に自らの国家犯罪を認めてしまったんです。経済協力欲しさに認めたのに、反対に経済制裁をくらってしまったんです。1942年生まれで戦前生まれですが、植民地統治も何も知らない世代なんですね。ああいういい加減な対応なので日本は怒って経済制裁をくわえたが、北朝鮮からすると、反対した軍首脳部の方が正しかったということになってしまった。金正日にとってつらいところでしたね。3代目金正恩が、「祖父・父ができなかったことを」と願ってあげてほしいと思いますが、父のやっていることをそのままそっくり真似していますね。

金正日が2000年アメリカのクリントン大統領と会談しようと思ひ、その前に南北首脳会談をして、金大中氏にクリントン大統領に顔を繋いで欲しいと

言っています。その後、國務長官のオルブライト大臣が訪朝し、「クリントン大統領が訪朝され、平和協定を結び国交正常化をしていただくならば、我々はその日をもって反米をやめる」「中韓米軍撤収については苦言しない」と金正日から直に言われました。何度も顔を見るほど驚いて、帰国後、クリントンに報告しました。金正日代理の軍 No.1 の国防委員会第1 副委員長を特使として送り、軍服でクリントンと握手をしました。皆さん、朝鮮戦争はまだ終わっていないですよ。停戦状態のままです。ホワイトハウスでアメリカ最高司令官と北朝鮮の軍 No.1 が握手するなんて、米朝の雪解けは間近だと確信しました。しかし、訪朝しようと思った時に中東紛争が起きて実現しませんでした。そして、その1ヵ月後の大統領選挙で後継者のゴアが共和党のブッシュに世紀の僅差で逆転負けしてしまいました。その瞬間に訪朝が流れてしまいました。もう1歩のところまでクリントン会談、米朝電撃関係改善。もし、そうなら、今日の拉致問題、核・ミサイル問題はここまで引きずらなかつたのではないのでしょうか。次のブッシュ大統領との仲裁に入った人が小泉総理なんです。2度平壤を訪問し、2度目の時は打ち解けていたんです。金正日は小泉総理にブッシュ大統領との仲だちを依頼しましたが、ブッシュ大統領は、今、金正日に会えば相手の術中にはまってしまうので「NO」と言ったんです。「残念ながらだめだった」という一報を聞いて、その1ヶ月後にテポドンを打ち上げ、3ヶ月後に初の核実験を行いました。これにブッシュが驚いて11月にベトナムへ行き、「金正日が核を放棄するならば、直接会って休戦協定・平和協定に署名してもいい」と言ったのですが、小泉総理からすれば遅いということですよ。6月に決断してくれていれば、ミサイル発射も核実験もなかつたんですから。これまた、失敗した

WATER & GEOLOGIC DEVELOPER  
**村木鑿泉探鑛株式会社**  
 〒456-0063 名古屋市熱田区西野町1-2  
 TEL (052)671-4126

ツタワルをツクル  
  
**株式会社 クイックス**  
 代表取締役社長 服部晋吾  
 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町二丁目2番地  
 TEL : 0566-24-5511(代表) / FAX : 0566-26-0200  
 URL : <http://www.kwix.co.jp/>

充実のコーヒーブレイクを合い営業に...  
  
**富士コーヒー株式会社**  
 本社 名古屋市中区栄西丁目16-27 TEL.(052)251-4321  
 営業本部 名古屋市中央区舟戸町6-18 TEL.(052)362-1161  
 営業所: 中川・愛北・南信・松本

**豊田信用金庫 天白支店**  
 〒468-0053 名古屋市天白区植田南2丁目2番6番地  
 TEL 052-802-5011 FAX 052-805-5027

んです。そして、次は3代目の金正恩ですが、アメリカバスケットボール選手のペドロッドマン氏にオバマ大統領に電話をくれるように依頼しました。結局、オバマ大統領から電話はなく、「休戦協定破棄だ」「ケソン工業団地一方的閉鎖だ」と暴れていましたね。こんな時に日本が仲裁に入って助言し、アメリカが受け入れてくれて事が運べば、日本は北朝鮮やアメリカから評価をうけることになり、拉致問題も一気に解決するでしょうね。日本の国連安保常任理事国入りも間違いのないでしょうね。そういった思い切った大胆な外交を、私はやっていただきたいとします。それが、日本の国益、安全、平和に直結するということですね。もっと言いますと、反日国家の北朝鮮を、親日にまでもっていけなくても知日にまでもっていければ日本の国益になると思うんです。1990年の金丸氏訪朝の時に日本ブームが起きたことを知っているだけに、残念なんです。ザックジャパンがワールドカップ第3次アジア予選が平壤で試合があった時、唯一、日本は負けました。負けた理由の一つの北朝鮮サポーターたちの日本に対するブーイングは、まだ記憶にあります。すさまじかったですよね。ああいうブーイングをさせるのが北朝鮮に対する日本の外交の目的なんですか。日本は北朝鮮をああいう国にしたいんですか。違うと思うんです。あんなブーイングをさせてはいけません。反日を親日じゃなくても知日に。北朝鮮を日本がとりこむこと、少なくとも中国から引き離すことが、今後の日本の進むべき道ではないかと思うんです。何度も申し上げます。日本が北朝鮮に入っていけば、両国とも潤うということは間違いのないでしょう。資源外交の見地からも安全外交の見地からも、もちろん人道上の見地からも、拉致問題の早期解決がいかに大事かということが皆さん方に強調できれば、私にとってはこちらに来て話しがいがあったと感じてい

ます。

テレビで話せるのは4・5分程度で、聞かれることだけに答えますので、私の言いたいこと、伝えたいことがなかなか伝わりません。ですから、いつもフラストレーションがたまります。こういう場が最高なんです。この話の続編がまだあるんですよ。あと1時間半くらいあればもっとこまめに説明ができるんですが。拉致問題につきましては、北朝鮮は死亡したと言っていますが、私はそうは思っておりません。他に拉致した人はいないといっていますが、私はそうは思いません。これをどうやって対決すべきかという策についてですが、金正日の時は「知らなかった、部下が勝手にやった」「調べてみたらいた」「申し訳ない」で済んだんです。そして、亡くなるまで「もういません」「後は全員死んでおります」と回答してきました。金正恩は、「亡くなっていませんでした、まだ、生きていました」「他にもいました」と言わなくてはなりませんね。ということは、親父が嘘をついていましたということを公にしなくてはなりませんね。これは、難しいことですよ。朝鮮半島で息子が出世や名誉のために父親を犠牲や踏み台にすることはまずないですね。「拉致問題の解決は決して悪いようにしない」「北朝鮮にとって最も信頼できるパートナーは日本だ」ということを発信するということですね。そうすれば決着すると思うんです。飯島さんが北に行った時に、「拉致問題を解決してくれたら決して悪いようにしない」と言ったら、「安倍総理がいらっしゃってくれたら決して悪いようにしない」と言ったそうです。「決して悪いようにしない」というところをもう少し詰めていけば、この話はまとまるんじゃないかなと思いますね。参院選挙後に安倍総理は動くんじゃないかなということで、注目していただきたいですね。また、その辺りで呼んでいただければと思います。ありがとうございました。

各種スポーツ施設の企画・設計・施工

株式会社 **S.T.S.**

〒461-0027 名古屋市中区春岡2丁目27番18号  
TEL.(052) 763-8141・FAX (052) 763-8110



OBAYASHI

地球に笑顔を

**大林組**

電気設備・送電線・地中線 設計施工



**川北電気工業株式会社**

本社/名古屋市中区栄四丁目6番25号 TEL.052-251-7111

<http://www.kawakita.co.jp>

フレンズ・TOHO 「協賛企画」 報告

フレンズ・TOHOは、東邦学園に関わる団体の様々な企画に協賛させていただいております。今回は、愛知東邦大学地域創造研究所主催の「減災研究会」、そして、東邦高等学校主催の「スピーチコンテスト」について、関係の皆さまからご報告いただきました。今後もこの活動は続きますので、機会がございましたら、是非、ご参加下さい。

また、上記の他、大学准教授大勝先生のゼミ生が主催した「東邦学園創立90周年記念 少年サッカー大会」、大学吹奏楽団「定期演奏会」にも、ささやかですが協賛金を贈らせていただきました。

地域創造研究所

「減災研究会」 報告



愛知東邦大学 学術情報課長 黒柳 好子  
(愛知東邦大学地域創造研究所 事務局)

愛知東邦大学地域創造研究所では、2011年3月11日の東日本大震災直後から、地域防災に関する観点で研究会を開催してきました。これまでの研究会のあらましをご報告させていただきます。

2011年度は、被災地の実態から学ぶことを基本に、「東日本大震災研究会」として4回の研究会を開催しました。



2011年度第1回「東日本大震災」研究会 2011. 5.27

第1回「東日本大震災—この目で見た被災地の姿—」(2011/5/27)では、被災地で救援活動に参加された名古屋市消防局消防隊員 瀧野吉博氏からお話を伺いました。震災直後、名古屋市消防局がどのように動き被災地まで行ったのか、猶予のない厳しい状況が映像資料とともに迫り、想像を絶する現状報告に言葉を失くし胸が詰まりました。この研究会終了後に多くの地域参加者から継続開催を希望する声が多数寄せられたこともあり、新たな視点で問題提起してゆくスタートの会となりました。

続く第2回「東日本大震災」研究会(7/15)は、テーマを「東日本大震災とボランティア」とし、被

災地で支援活動に携われている「NPO レスキューストックヤード」代表理事 栗田暢之氏から現地のボランティア活動についてお話を伺いました。やり場のない被災者の心にボランティアはどのように寄り添い支えることができるのか、ボランティアが果たしている役割について力強いメッセージをいただきました。さらに東邦高校生の被災地ボランティア活動報告がありました。高校生が受けた衝撃は大きく、「3月11日」と書かれた教室の黒板を見たその時から、自分たちに何ができるのか自問自答の日々であったようです。第3回(10/21)も第2回と同じテーマで、本学園の高校生、大学生、教職員のボランティア報告会としました。第4回は「東日本大震災から学ぶ巨大地震への備え」として、予測される東海・東南海地震の危険、減災のために自助・共助・公助はどう連携すべきかについて、防災専門家の工学院大学教授三好勝則氏と愛知県防災局原田信一氏、名古屋市消防局 木全誠一氏、地域代表として防災担当の佐藤弘氏からお話を伺いました。この年の4回の研究会と本学東邦高校生と大学生のボランティア諸活動をま



2011年度第4回「東日本大震災」研究会 2012. 2.11



名鉄百貨店アイカード  
会員募集中  
meiisu

鈴木健治法律事務所

弁護士 鈴木 健治 (高17回)

〒451-0031 名古屋市西区城西1丁目8番16号 杉浦ビル2階  
電話 (052) 532-8320 FAX (052) 532-8420

とめ、地域創造研究所叢書19号『東日本大震災と被災者支援活動』（2013. 3 唯学書房）として刊行しました。



第1回「地域減災」研究会  
2012. 7.21

防局のご支援を受けて実施することができました。

第1回「地域の成り立ちを知り、防災力を高めよう—南海トラフ巨大地震に備えるために—」（2012/7/21）では、名古屋市消防局 木全誠一氏から日本列島のプレートの動きから名東区の成り立ちまで、詳細なデータをもとにお話していただき、地元の参加者にとり貴重な情報を提供していただきました。

自分たちが住んでいる地域の成り立ちを知ることからスタートした研究会は、第2回「街を歩いて、身近な地域の成り立ちを



第2回「地域減災」研究会  
2012.11.10

知り、防災力を高めよう」（11/10）に引き継がれました。この研究会には名古屋市消防局 木全誠一氏、吉田博氏、西尾未来氏を講師にお迎えし、参加者と一緒に紅葉がはじまった名東区内をマイクロバスと徒歩でまわるフィールドワークを実施しました。各ポイント地点でその地域の成り立ちや災害の記録などの説明を受け防災の観点から地形をどのようにとらえることができるか学習しました。

第3回は「皆で話し合い、身近な地域の防災力を高め、災害による被害を減らそう」（2013/ 2/ 9）をテーマに第2回のフィールドワークを受け、第2回の講師に加えて新たに同所属の山田尚功氏をお迎えし、ワークショップ形式で開催しました。地震が発生したと仮定し、個人または家族で何をするかなどグループごとで熱心な話し合いがもたれました。



第3回「地域減災」研究会  
2013. 2. 9

できれば幸いです。

2013年度は、大規模地震災害に対する「備え」を考えるため「その時何が起こったか？何が必要か」をテーマとして、現実に震災と津波被害を経験した被災者の皆様からその体験談も踏まえた当時の状況をお話していただく研究会としました。

第1回「かけがえのない命を守る—東日本大震災からの教訓—」（2013/ 6/22）では、女川中学校教諭 佐藤敏郎氏を



第1回減災研究会  
2013. 6.22

お迎えし、現職教諭としてどのように被災した子どもたちと向き合ってきたか、その厳しい過程が報告されました。講演中に紹介された『女川一中生の句あの日から』（小野智美編 羽鳥書店発行）は子ども達が詠んだ句集です。国際宇宙ステーションへ句集を打ち上げるという提案があり、それを佐藤氏（国語担当）に託されたことから始まりました。佐藤氏もまた、大切なお子様をこの震災で亡くされており、その痛み苦しみを知る立場であるがゆえに子どもたちの重荷にならないか不安の中での取り組みであったようですが、2回目の授業の際には多くの子どもたちが震災と向き合っていたそうです。「五七五」に込められた子どもたちと佐藤氏の想いが伝わってきます。是非ご一読ください。

第2回は会場を津島市文化会館に移し、平山学園清林館高等学校様のご支援のもと、共催して開催することになりました。第1回と同様、佐藤敏郎氏を講師にお招きし、「学校として子どもたちをどう守るか—東日本大震災からの教訓—」（10/ 5）と題し


**青島設計**  
 AOSHIMA ARCHITECTS & ENGINEERS INC.  
 名古屋 (052) 262-2341  
 東京 (03) 3431-2341  
 URL <http://www.aoshimas.co.jp>

より良い記録、より豊かな精神は、よい体育施設から生まれる  
**石黒体育施設株式会社**  
 代表取締役 石黒和重  
 名古屋市千種区春岡2丁目27番18号 TEL052-757-4030



第2回減災研究会  
2013.10.5

が予想される地域での開催に教育関係者の関心も高く、研究会始まって以来の200名を超える参加者数となりました。第3回は、2014年2月20日に津島

て、子ども達の命をあずかる教育機関として日頃からどのように防災に取り組むかについてお話していただきました。災害時により甚大な被害

文化会館で開催する予定です。

このようにさまざまな視点で「あの日」を地域の皆様とともに考えてまいりました。これまでの研究会で講師の皆様からいただいた数々の教訓を、必ず来る「その日」のために役立てていただけることを願っています。

地域創造研究所では地域の皆様と連携し、より良い地域社会を築くための提言をこれからも続けてまいります。今後とも皆様のご支援ご協力のほど宜しくお願い致します。

## 第8回「中学生英語スピーチコンテスト」を終えて

東邦高等学校 国際交流室長 伊藤 保憲

東邦高等学校国際交流室は、英語や国際交流に関心を寄せる中学生の日ごろの学習成果を発表する場として、中学生英語スピーチコンテストを企画しています。今年度は第8回目となりましたが、第1回目よりフレンズ・TOHOには後援をいただいております。本企画への深いご理解とご協力に、深く感謝申し上げます。

本校の英語スピーチコンテストは、自分で意見や考えをまとめて発表するスピーチ部門と本校が指定する原稿を暗唱朗読するレシテーション部門の2つの部門に分かれています。多くは愛知県内の中学校から約160名が参加し、にぎやかにそして真剣に行われています。発表は、ただ英文を読み上げるだけでなく、発音やイントネーションに注意を払いながら英単語一語一語を丁寧に扱い、身振り手振りも含めて感情豊かに聞き手に届けようと真剣です。

考えてみれば、人前に立って話をするということ

は日本語でさえ緊張するものですが、英語で発表することには大変な勇気がいることでしょう。どの出場者も、当日を迎えるまでに時間をかけて練習を重ねてきたことと思います。英語で話す勇気と、このコンテストのためにたくさんの練習をしてきたその努力に対して心からの敬意を表するものであります。また、指導される中学校の先生方の情熱にも敬意を表するものです。

「国際化」という言葉はすでに古くなり、あらゆるものが「グローバル化」していく中で、現代の若者は英語を使うことにより積極的な姿勢を持つことが求められるでしょう。東邦高校国際交流室は、多文化の中で生き抜く力を持つ人材を育成する場となり、地域社会、国際社会で活躍する人材育成の場として貢献できればこれに勝る喜びはありません。

今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

ビルを、まるごと、心地よくする。  
**三菱電機ビルテクノサービス**

「安全第一 相互信頼」をモットーに安らぎと潤いに満ちた豊かな人間社会の発展に貢献します。  
**中央電気工事株式会社**  
取締役社長 加藤 英和  
本社 〒480-8434 名古屋市中区栄3-14-22 ☎(052)262-2151 (大代表)

axona 集いと学び空間をデザインする  
AICHI  
教育施設用家具  
**愛知株式会社**  
http://www.axona-aichi.com  
〒461-0003 名古屋市東区南井3-27-25  
TEL (052) 935-6226 FAX (052) 935-6220

DSK  
新しい価値の創造こそ私たちの使命です  
**株式会社 電算システム**  
http://www.densan-s.co.jp/  
□岐阜本社 岐阜県岐阜市日置江一丁目58番地 058-279-3456  
□名古屋支社 名古屋市中村区名駅南一丁目18番24号 052-581-6785

## 2013年「夏の企画」報告

フレンズ・TOHOは、長い夏休みを利用して、一般会員の皆さま、地域の皆さま対象に「夏の子ども企画」を実施いたしました。

2013年は、昨年に続きまして「第2回 親子理科実験講座」、昨夏初めて開催いたしました「親子スイーツ教室」、地域の子どもたち対象の「東邦学園創立90周年記念 小学生ドッジボール大会 トークン杯・ホーちゃん杯」を実施いたしました。いずれの企画につきましても、参加されました皆さまから「楽しかった」「また参加したい」との声をいただき、スタッフ一同、とても嬉しく思っております。

### 《親子理科実験講座》



8月5日(月)、東邦高等学校理科実験室において、第2回「親子理科実験講座」を開催いたしました。講師は高校理科教諭の稲葉益夫先生、助手を務めてくれたのは高校理科助手の酒井拓哉さんです。

この日は3種類の実験を行いました。とりわけ人気だったのが、「液体窒素実験」。

液体窒素の入った容器の蓋を開ければ霧のような煙がただよい、「ちょっと手を出してみて」という稲葉先生の呼びかけに、おっかなびっくり手を出す子どもたち。液体窒素に触れた瞬間、「冷たい」「ワー

オ」の声、声、声。バナナを入れればカチンコチン、花も瞬間に凍ってしまいます。参加した子どもたちはもちろんですが、付き添いでいらっしやった保護者の方々も、一様に驚きながら、「ちょっとやらせて」と子どもたち以上に楽しんでみえました。

日頃、こうした実験をする機会の少ない子どもたちは、「えーっ」「すごい」の連続で、大いに盛り上がりおりました。参加者は15名で、昨年より少しばかり少なめではありましたが、昨年が続いての参加者もみえ、「来年は、また新しいことを…」との子どもたちの期待の声が聞こえてきました。



### 《ドッジボール大会》

8月10日(土)、暑い暑い愛知東邦大学体育館を会場に、「東邦学園創立90周年記念 小学生ドッジボール大会 トークン杯・ホーちゃん杯」を開催いたしました。初めての企画で、中には全国大会に出場

できるようなチームもあり、戸惑うことや準備不足のことなどもありましたが、名古屋市ドッジボール連盟、名東区体育協会のご協力はもちろん、大学の有志・男子サッカー部・卒業生などの学生ボランティア

立ちどまらない保険。  
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心  
GK

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 www.ms-ins.com

タケショウ株式会社

〒475-0837 半田市有楽町7丁目37番地12  
TEL (0569)23-0511  
FAX (0569)23-0520  
URL <http://www.takeshou-gr.co.jp/>

防水工事専門業者株式会社忠京で安心ある暮らしを

株式会社 忠京  
www.cyukyowp.jp

代表取締役 宮崎 豊太郎  
〒459-8001 愛知県名古屋市長区大高町字上瀬木川東43番地の1  
電話 052-626-2332(代表)

快適をカタチへ、カタチから空間へ。

株式会社 ホウトク

〒485-8562 愛知県小牧市上末東山 3509-190  
☎(0568)47-5800 FAX(0568)47-5804

アのおかげで成功裏に終えることができました。

当日は、選手はオフィシャルチーム16チーム・ジュニアチーム10チームで約430名、役員・審判が31名、保護者が約100名、愛知東邦大学学生ボランティア（卒業生を含む）が29名、東邦学園関係者が9名で、計600名超の参加者で体育館は熱気に包まれました。



どの選手も真剣そのもの、体育館の暑さをものともしない熱戦となりました。男子の投げボールはも

ちろんですが、女の子のボールも大人顔負け、ビックリするよう



なスピードと迫力で、審判補助を務めたサッカー部の学生が目を見張る瞬間がしばしばありました。

「90周年記念」と銘打って第1回を開催した大会ですが、来年は、学びの一環としてプログラム化し、主体を大学生に移す予定です。地域の方々との協力関係も強めたいと願っております。今後も、様々なご支援いただければ幸いです。

## 《親子スイーツ教室》

8月22日(木)、東邦高等学校食物実習室において、「親子スイーツ教室」を開催いたしました。参加者は4組の親子を含む17名。さすがスイーツ好きの集まりで、終始、賑やかな会話が飛び交っていました。

メニューは「マーブルケーキ」「カラフルクッキー」「クリームチーズプリン」の3種類。講師を務めて下さった川江里香さんは「甘いものなら何でも来い」の腕前で、「すっごい簡単ですから」の言葉から教室は始まりました。

「マーブルケーキ」はスイーツの定番とあって、どの参加者もニコニコしながら取り組んでいましたが、模様を綺麗に入れるのは思ったより難しく、ナイフを入れて「あれっ」の声。講師の川江さんの焼いたケーキと比べて「負けた…」。



「カラフルクッキー」は、基本・ピンク（ミックスベリージャムと赤色の色粉）・みどりの色粉（ホワイトココアと緑色の色粉）・茶色（ココア）の4種類。テーブルでは、お母さんに助けられながら懸命に粉をこねるかわいらしい姿が見られました。色もさることながら甘い香りが部屋中に満ちていました。

「クリームチーズプリン」は……、ゼラチンも入れ、ミキサーで均等に攪拌もしたはずなのですが、何故か固まりません。川江さんの「失敗なんてありえないんだけど…」の一言に、参加者は、「何としても固めよう」とプリン容器を冷蔵庫から冷凍庫へ。アイスキャンディー風プリンもなかなかの味でした。



2時間の予定が2時間半の実習となりましたが、たくさんクッキーとマーブルケーキ1本のお土産に、参加者はどの顔も満足げ。次の機会をお楽しみに。

鉄・非鉄 解体リサイクル  
株式会社 ジェイピーシーズ  
JP CEES  
〒442-0001 愛知県豊川市千両町下/市場 107 番地2  
TEL : 0533-85-1551  
FAX : 0533-85-2867

Justice 正義 Environment 環境  
Passion 情熱 Employment 雇用  
Customer 顧客 Stockholder 株主

DNC. 大日本土木 株式会社 名古屋支店  
常務執行役員支店長 井上 勝  
〒460-8412 名古屋市中区栄1丁目7番地33号  
TEL : 052-201-1078 / FAX : 052-212-3504  
URL : <http://www.dnc.co.jp/>

JTB JTB中部 教育旅行名古屋支店  
〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-18-24 マビルディング5階  
TEL:052-586-2311  
FAX:052-586-2355

進捗率を見直しませんか!  
お客様のお車を運行管理いたします。  
コスト削減、業務の合理化・効率化

株式会社スターロードシステム  
代表取締役 井島 規夫  
(東邦高校 37 期卒)

URL: <http://www.star-road.jp>  
TEL: 052-737-3787

# 2013年「秋の企画」報告

## 《コーヒー講座 第2弾》

10月14日（祝・月）、愛知東邦大学において、第2回「おいしい珈琲の淹れ方と飲み方」を開催いたしました。講師は、昨年に続き富士コーヒー株式会社社長の塩澤敏明さんと生産部の内藤さんです。

第1部は、塩澤さんによる「講義」。2年間、ブラジルに渡ってコーヒー修行をされた塩澤さんのお話は実感を伴っており、わかりやすい上に現地環境や人々の様子も伺える楽しいものでした。コーヒーハウスが最初にできたのは1554年のイスタンブール。この時代、社交場に女性は入ることを許されず、コーヒーはもっぱら男性の飲み物だったとか、日本で最初にコーヒーを飲んだのは、1806年、ロシアが蝦夷に攻め入った時、防衛軍として戦った津軽藩士だったとか。また、今や当たり前になっている缶コーヒーは、大阪万博の時に初めて発売されたとか。次々と興味深い話が語られ、あっという間の1時間でした。



第2部は「実演」です。内藤さんが3種類の抽出機（フレンチプレス・サイフォン・ドリップ）を使ってコーヒーを淹れて下さり、味合わせていただきました。参加者全員が「違いのわかる」コーヒー好きであったかどうかは不明ですが、コーヒーの香りに包まれた幸せなひと時となりました。参加者も実際にコーヒーを淹れさせていただきましたが、なかなか思うようには淹れられず、「プロは違うなあ」と思わされた瞬間でもありました。

最後に、「おいしく淹れるポイント」をいくつか伺いましたが、1つ、「コーヒーは淹れ始めてから4分以内に」「これ以上の時間をかけると『おいしくない成分』が出てしまう」そうです。是非、参考にして下さい。



<http://www.marumi.com/>

モノと心を大切にしない社会の実現

**丸美産業株式会社**

〒467-8533 名古屋市瑞穂区瑞穂通3-21 TEL.(052)851-3511(代)

代表取締役会長 嶺木 昌行 代表取締役社長 南 喜幸

ISO 14001 認証  
ISO 9001 認証  
JAB 認証

30年からの土地活用

**KODATEX**  
コダテックス

土地・建物の有効活用のバイオニア

**貝沼建設株式会社**

代表取締役 宇山 公一郎 〒460-0008 名古屋市中区栄五丁目7番14号  
TEL.(052)242-1131 FAX(052)242-2291

## 《シリーズ「ニュース そうだったのか」連続講座》

秋も深まった11月、東邦学園榊理事長を講師にお迎えして、「ニュース そうだったのか」連続講座を開講いたしました。参加者は延べ58名で、3回を通して参加された方が11名みえました。フレンズ会員の皆さまだけでなく、地域の方にもご参加いただきました。



ました。大切な問題だとは思いつつも、なかなか自分の事として感じにくい事柄ですが、私たちひとり一人が関心をもって見守ることの重要性を実感いたしました。

3回を通じて、予想していた以上に活発にご質問、ご意見が出されて盛り上がり、皆さまの関心の高さを感じる講座となりました。

第1回(11/6)は「政治の動きに詳しくなろう」。歴代の首相の在任期間と時代的な背景を示しながら、それぞれの首相の個性や業績をお話いただきました。時には、榊理事長ご自身の新聞記者時代のエピソードも交えてのお話は、難しい内容も楽しく聞くことができました。特に印象に残ったのは、小泉首相の時を契機にして「世論の動向」が政治を大きく変えてきたこと、そして、事実上の任免権者が時代とともに変わってきた、つまり、「日本の針路を決めるものは選挙である」との言葉でした。

第2回(11/20)は「日本の外交に詳しくなろう」。「沖縄」問題を中心にしながら、「北方四島」「竹島」「尖閣諸島」問題までに及ぶ話は、非常に興味深いものでした。ひとつひとつの問題は、決して分離して考えるものではなく、日本を取り巻く情勢と深い関係にあるのだと考えさせられる講座となりました。

最後の第3回(12/4)は「憲法のことに詳しくなろう」。憲法改正が話題に上る昨今、「何を変えようとしているのか」を、自由民主党の「日本国憲法改正草案」のポイントを示しながら解説していただき

### 「連続講座」を受講していただいて

東邦学園理事長 榊 直樹

講座は、フレンズ会員の皆さまの中に、政治の動きに強い関心をお持ちの方々がいらっしやると感じており、何らかお応え出来ないかと開いていただいです。東邦学園で現在の役をいただく前の32年間は、新聞記者を務めており、政治の権力闘争を目の前にした体験もあったからでした。

受講の皆さまには、実に熱心に聴いていただきました。さらに2回目の途中からご質問が飛び出し、3回目は「ディスカッションをしましょう」というご提案をいただき、ちょっとした「白熱教室」の雰囲気にもなりました。

もしも、今回参加して下さったような方々が国民の多くを占めているなら、国民世論は思慮深く、バランス感覚もあり、日本はその針路を過たないだろうと感じました。

また機会があれば、話題を新たにして、講座を開かせていただきます。ありがとうございました。

**mini mini**  
 お部屋探しは 宝二宝二屋ヶ丘店 検索  
<http://minimini.jp>  
 TEL 052-781-3123 FAX 052-781-3124

名古屋観光ホテル Tel.052-231-7711(代)  
[www.nagoyakankohotel.co.jp](http://www.nagoyakankohotel.co.jp)

**CENTRAL+**  
 株式会社 セントラル防災  
 〒454-0975 名古屋市中川区七反田町3番地  
 Tel.052-431-0711 Fax.052-431-0885  
 URL <http://www.central-b.jp/>

- ◇消防設備(保守・点検・施工)
- ◇防火対象物・防災管理点検
- ◇特殊建築物等定期調査
- ◇建築設備定期検査

自然と親しむ会

## 木曾ひのきの森 赤沢自然休養林を歩く

夏真っ盛りの8月3日(土)、長野県の赤沢自然休養林へ行って来ました。

当日は、参加者の集合時間が7時50分だったのですが、バスが到着したのは7時45分。正直、ちょっと心配しましたが、出発してからは極めて快調に進みました。

道中は、ガイドを務めていただいた岡田保さん(自然と親しむ会世話役・フレンズ TOHO 会員)の、わかりやすいと同時に興味深い解説が続き、バスの中は次第に盛り上がり行きました。阿寺断層はバスを下車して見学し、桃助橋・下出橋のところでは東邦学園・下出家とのつながりが語られました。阿寺断層は、想像していた以上にくっきりと見え、「学生時代は地学が苦手だったなあ」「もっと早くにこうして実物を見たかったなあ」と談笑しながら見学される参加者もいらっしゃいました。



予定通り、11時には赤沢自然休養林駐車場に到着。いよいよ散策です。今回は「冷沢コース」を歩きました。冷沢コースは、赤沢一帯の最深部を歩くもので、木曾ひのきの立ち並ぶ景観は見事なものでした。ふれあいの道を経由して「丸山渡停車駅」まで進み、本

谷橋へ向かって森林鉄道の軌道跡を歩きました。途中、トロッコ列車が走るのを見ました。今回



は乗車しませんでした、「一度、乗ってみたいなあ」と思わせる、情緒ある風景でした。本谷橋を渡って榎窪までは峠道。木々の間から漏れる陽の光は穏やかな温かみのあるもので、風の爽やかさ、涼しさといまわって、実に心地よい時間でした。

お昼ごはんは、途中、上松駅前の料理店で仕入れたお弁当。もともとの美味しさに、ひのきの香りや可憐な花たちが彩りを添え、とっても美味しくいただくことができました。

帰りには、国道19号線沿いの「大桑道の駅」にてしばしの休憩。皆さん、地元の野菜や木の器、名産品などに目が向き、それぞれにお土産を買い込んで帰路につきました。東名高速道路名古屋インターを出たのが、午後5時15分。楽しい旅が終わりました。



## 編集後記

これで今年2回目でしょうか。列島各地に大雪が降り、日本中が混乱しています。

交通網の混乱は言うまでもないのですが、降雪4日目になっても、孤立している集落や雪に阻まれて抜け出せない車が千台を超えているとか。食料や燃料、トイレやお風呂など、日頃は当たり前で過ぎていた1つ1つが、思うようにならない。実際に巻き込まれている方々のことを思うと、心が痛みます。

一方で、嬉しい話も聞きました。長野県の軽井沢町で災害にあわれている方々に、地元の皆さんがカレーなどの炊き出しをして支援されたとか。ほっとすると同時に、「お互い様」「助け合って」の心を見た気がして、嬉しくなりました。

「自然を敬う」「自然と共存する」と口にするのは簡単ですが、改めて自然の怖さを実感すると同時に、「自然に生かされている」ことを胸に刻みたいと強く思いました。